

氏名	寺 田 紀 彦		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 715 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 50 年 12 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学 位 論 文 題 目	発癌から腫瘍死に至る間の宿主の免疫系ないしは生体防禦機構 について I. Methylcholanthrene 投与後発癌過程における宿主の免 疫系ないし生体防禦機構について II. Methylcholanthrene 誘発肉腫増殖過程における担癌宿 主の免疫系ないし生体防禦機構について		
論 文 審 査 委 員	教授 砂 田 輝 武	教授 小 川 勝 士	教授 妹尾左知丸

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Methylcholanthrene (MCA) 投与後発癌過程において免疫監視機構がいかなる変動をきたすかをみるため、羊赤血球に対する溶血斑形成細胞 (PFC) の数量的推移及びリンパ節リンパ球の PHA 付加下での allogeneic inhibition 活性の推移をみた結果、MCA 投与後早期より PFC 数は減少し、発癌し腫瘍が可視しうる時期まで PFC 数の減少は持続し、一方 MCA 投与後の allogeneic inhibition 活性は発癌まで保持されていることを明らかにした。(第 I 編) 次いで、MCA 投与後発癌以降腫瘍死するまでの間に担癌宿主の PFC の発現率及びリンパ節リンパ球の allogeneic inhibition 活性の推移をみた結果、MCA 投与後担癌マウスの脾細胞においても PFC 数の減少は引き続きみられ、一方 allogeneic inhibition 活性は腫瘍が増殖するにしたがって低下することを明らかにした。(第 II 編)

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は Methylcholanthrene 投与後の発癌過程および発癌以降増殖過程における担癌宿主の免疫系ないし生体防禦機構について研究したものであるが、未だ十分解明されていない発癌剤投与による発癌ならびに腫瘍増殖過程における免疫監視機構の変動・推移について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。